

室 蘭 民 報

第23回室蘭市ボランティアの集い(市社会福祉協議会、市ボランティア連絡会主催)が21日、東町の市中小企業センターで開催され、参加者は災害への備えやボランティアの役割を考えた。

同連絡会に加盟するボランティア団体のメンバーや市民ら約70人が参加。2年前から東日本大震災の被災地に生徒を派遣している室蘭・海星学院高校(香川謙二校長)が、岩手県釜石市での活動成果を報告した。今年7月8、12日の日程で、1、2年生の6人が傾聴ボランティアなどに取り組み、仮設住宅の被災者

災害時の対応考える

室蘭市ボランティアの集い

被災地での活動報告も

や現地のボランティアと交流した。集いでは被災地の状況や、活動内容を振り返りながら、被災者と交流し



被災地でのボランティア活動を報告する海星学院高の生徒

たエピソードを披露した。1年生の荒井祐人君は、高齢男性との出会いを紹介し「徐々に打ち解けることができた。最後は笑顔で『ありがとう』と言われ、最初の不安も吹き飛んだ」、田村美菜さんは「前向きに歩こうとしている被災者の心に寄り添うことがボランティアとしてできる支援」と強調した。

同校に続いて、市総務部防災対策課の太田篤司課長が、災害発生時の行動や平常時の備えについて講話。参加者らは災害にどう備え、ボランティアとして何ができるか再考していた。

(菅原啓)